

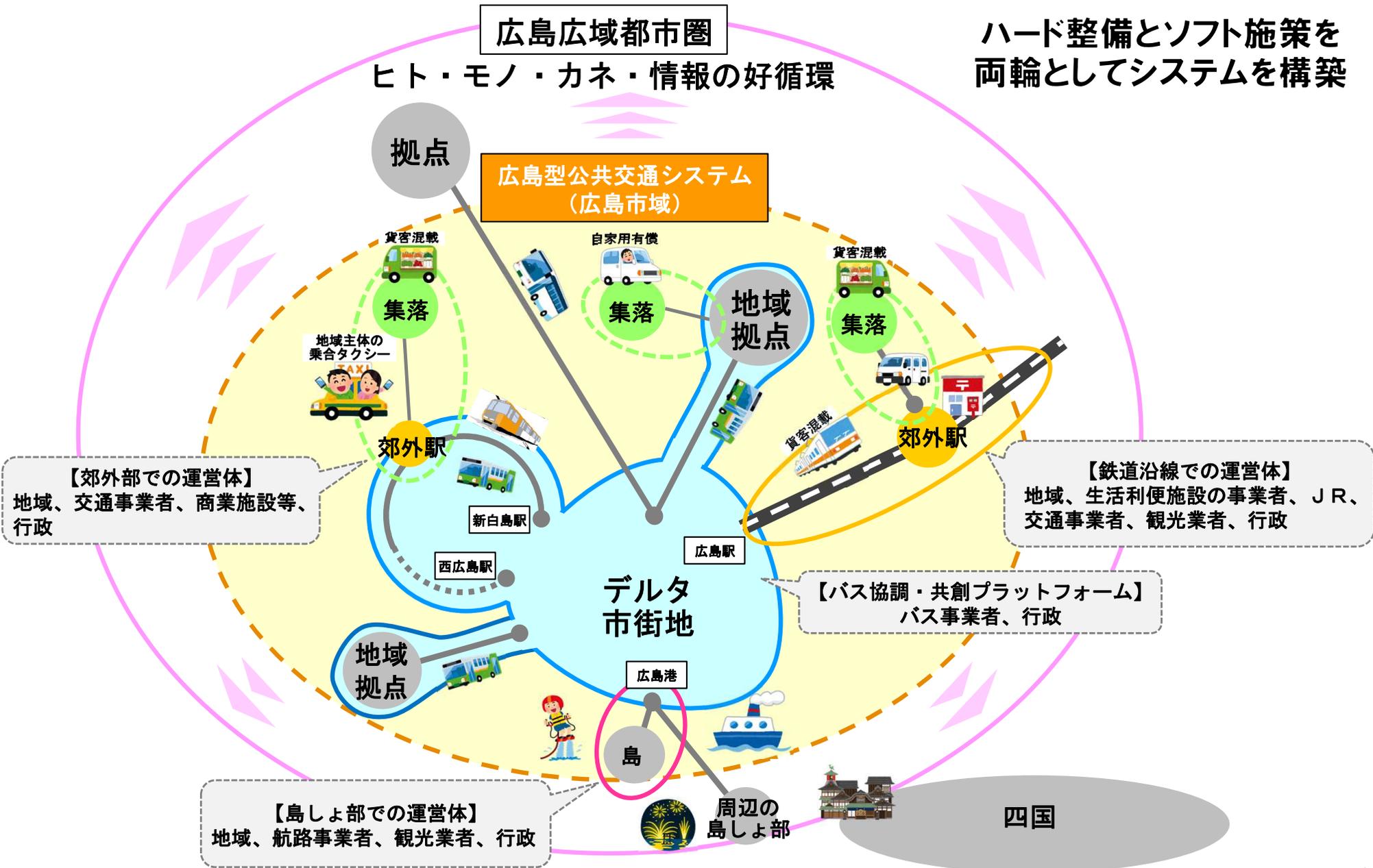


広島型公共交通システムの構築

全体像

ハード整備とソフト施策を
両輪としてシステムを構築

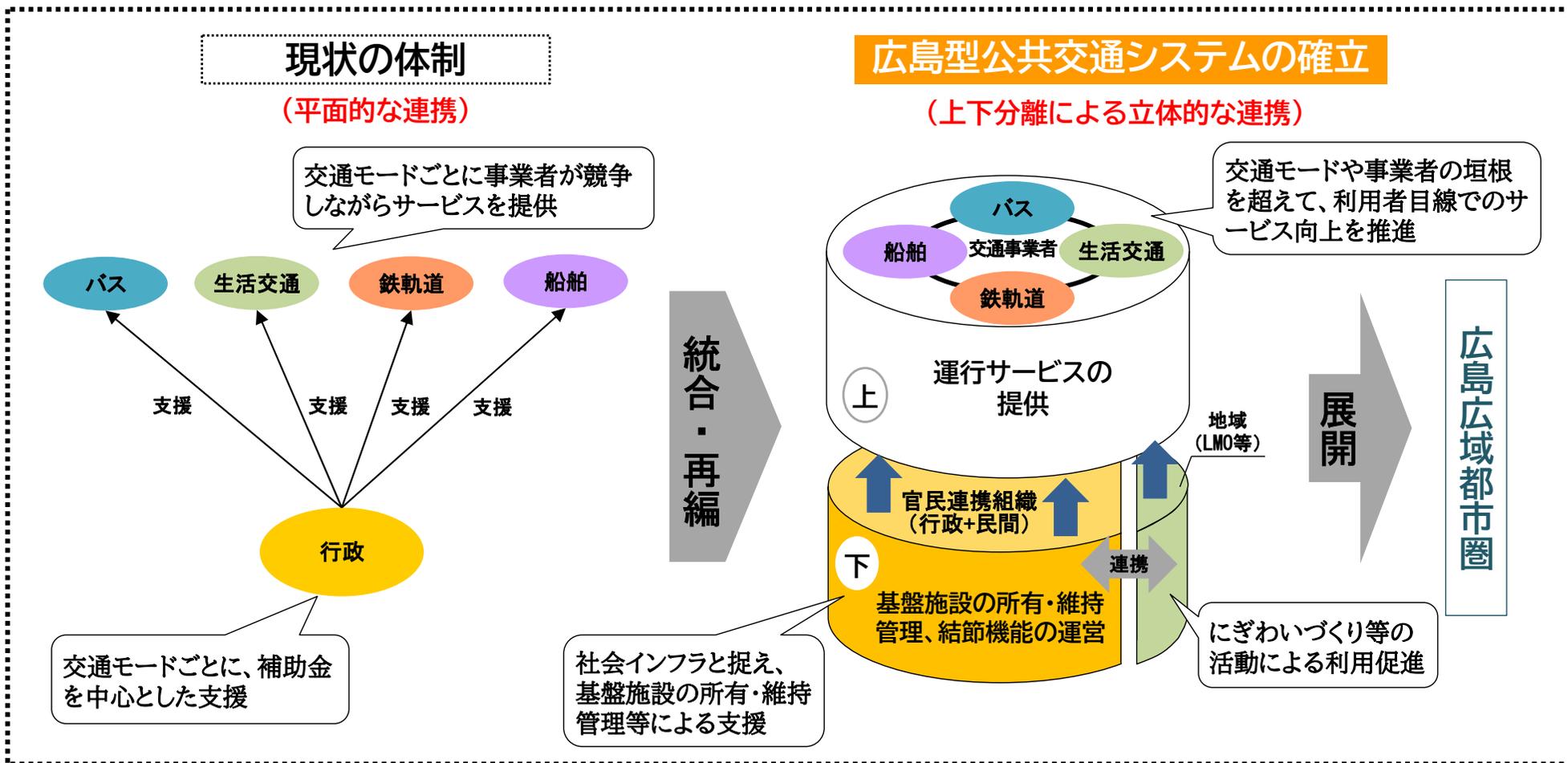
広島広域都市圏
ヒト・モノ・カネ・情報の好循環





広島型公共交通システムの構築

運営体制イメージ





広島型公共交通システムの構築

乗合バス事業共同運営システムに係る運営スキーム

地域公共交通活性化協議会 (バス事業分科会)

公平・中立な第三者機関

- ・ 目標とするサービス水準の設定
- ・ 運行等改善計画の承認
- ・ 取組状況の評価

承認・評価

提案・報告

バス事業者8社

運行サービスの提供

- ・ 事業者間の協調による利用者目線でのサービス向上
- ・ 収支改善による経営安定化

運営負担金

バス事業全体を
下支え

官民一体でバス事業の再構築に
取り組み、事業者単独では
なしえなかった取組を実現

R6.3 市とバス事業者8社
による協定締結



R7.4 事務所を開設し
実質的な稼働開始



(一社)バス協調・共創プラットフォームひろしま



全体最適化に資する多彩な共同事業を推進

路線の最適化



路線の重複の解消やフィーダー化、ダウンサイジングなど

運転手の安定的確保



離職防止と採用強化のための労働環境の改善など

利便性の向上・利用促進 (シームレスなサービスの実現)



・ バス停の待合環境整備やバスロケーションシステムの高度化など



・ ゾーン運賃やダイナミックプライシング等の新たな運賃制度の導入や乗継割引の拡充など

リソースの共有化



EVバス車両や車庫等のインフラ資産の整備・管理

新技術の導入



バスの自動運転化、AIを活用した事務の効率化など

広島市

法人の運営を支援

共同事業への財政支援

社会資本整備総合交付金等の国の支援メニューを最大限活用

運営負担金

